

ブロードバンド時代の新OS



ウィンドウズ XP 次世代ネットワーク対応

いよいよウィンドウズが一本化される。5年以上にわたって使われてきたウィンドウズ9x系OSはウィンドウズMeでその役割を終え、ウィンドウズ2000をベースにした新しいOSとして、ウィンドウズXPが誕生する。Experienceを意味するXPを御旗に持ったこの新世代OSを、インターネット対応の面から見ていくことにしよう。

山田祥平

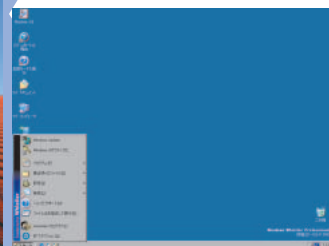
新時代のウィンドウズXP 日本では11月上旬登場予定

すでに米国では、ウィンドウズXPの出荷開始が10月25日であることが表明されている。これまでの例からいっても、そこから大きなタイムラグをあげることなく、日本語版が出荷されるだろう。これに伴い、従来のウィンドウズMeはなくなり、ウィンドウズ2000をベースとした新しいOSとして、ウィンドウズXPが、今後のパソコン用OSのメインストリームとなるわけだ。MS-DOSの時代から増築改築を繰り返しながら、32ビット時代への橋渡しをしてきたウィンドウズ95からの流れが、これでついにその使命を終えるのだ。

個人向けのホームエディションと オフィス向けのプロフェッショナル

ウィンドウズXPには、個人向けのホームエディションと、ビジネス向けのプロフェッショナルの2種類が用意される。つまり、量販店に並ぶ多くのパソコンにプレインストールされ、普通の人々が利用することになるのは、ホームエディションのほうだ。

ホームエディションはプロフェッショナルの



ウィンドウズXPの新しいGUI環境「Luna」。従来のような画面にも、デスクトップテーマ(Windows Classic)で切り替えられる。

ウィンドウズXPのラインアップ



サブセットにあたり、ドメインへのログオン機能などが省略されている。また、両者ともNetBEUIなどの古いプロトコルが標準サポートされなくなった点にも注意したい。

なお、さらにハイエンド向けのサーバー製品については、この両エディションよりも遅れての出荷が予定されている。

インストールに必要なスペック(日本語版ベータ2)

CPU	233MHz以上
メモリー	64Mバイト以上 (128Mバイト以上を推奨)
HDD	650Mバイト以上の空き容量 (ディスク全体では2Gバイト以上)

マシンの共有も簡単に

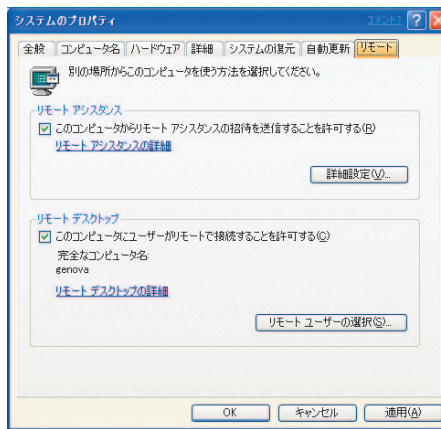
家庭で使われるパソコンでは、家族が1台のマシンを共有する使い方が想定されるが、ウィンドウズXPのログイン画面は、より親しみやすいグラフィカルなものとなる。各ユーザーごとのグラフィックスは自由に設定でき、プログラムを動かしたままでのユーザーの切り替えも可能となる。このことで、姉がメール受信を行わせたままで、妹がワープロでの作業をするといったこともでき、受信したメールの数などもログイン画面で確認できる。



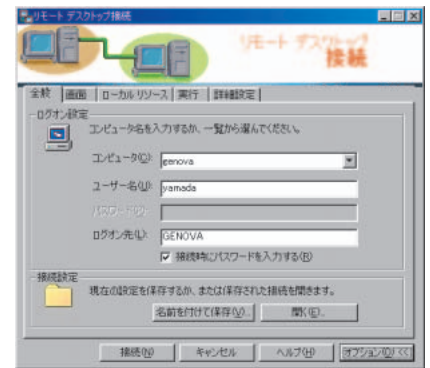
ウィンドウズXPのログイン画面。ログインするユーザーが簡単に変更でき、未読メールなどもここに表示される。

リモートデスクトップで遠隔ログイン

リモートデスクトップを使えば、ネットワーク接続されたウィンドウズXPパソコンをネットワーク経由で操作することができる。もちろん、インターネット経由での接続も可能だ。この機能は従来よりあったWindows Based Terminal (WBT) を拡張したもので、ウィンドウズXPパソコンは、リモートプロパティを変更するだけでサーバーとして機能するようになる。また、リモートアシスタンスは同様の接続で、離れたところにあるパソコンを共有する機能だ。鍵に相当するファイルを送ることで、相手が期限付きで自分のパソコンをリモート操作できるようになる。こちらはおもに、遠隔でのサポートを目的にして用意された機能だ。

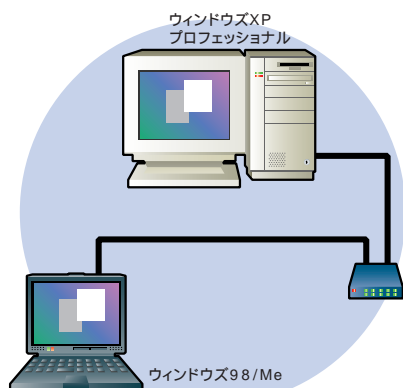


ウィンドウズXP側では、システムのプロパティでリモートデスクトップを使うように設定するだけ。

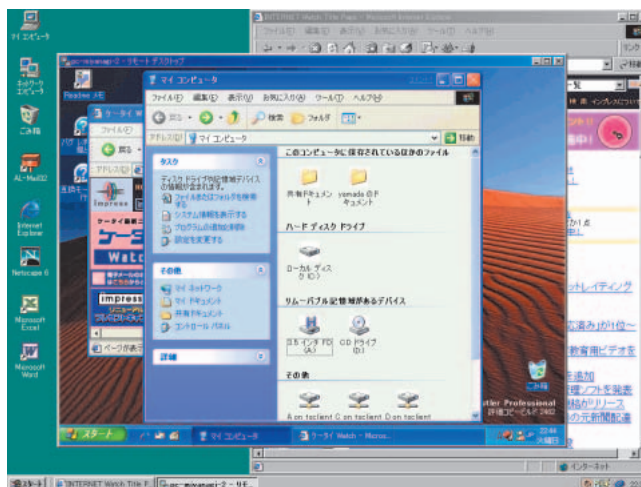


リモートデスクトップのクライアント。ウィンドウズ98/Me/2000などにもインストールできる。

リモートデスクトップ



LAN内のパソコンでウィンドウズXPのデスクトップ環境がそのまま操作できる。

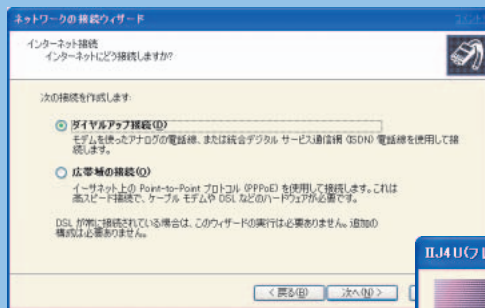


ウィンドウズ98からリモートデスクトップを使った例。デスクトップだけでなく、ハードディスクやCD-ROMなども共有可能。

PPPoE対応でADSLもOK!

おなじみのネットワーク接続ウィザードでは、インターネット接続先の作成において、「広帯域の接続」をサポートするようになる。これは、東西NTTのフレッツ・ADSLなどで使われているPPPoEのことだ。これで、特別なソフトウェアを使うことなく、従来のダイヤルアップ接続と同じ感覚で、DSL モデムを経由したブロードバンドでのインターネット接続が可能になる。

ウィンドズMeにあったWinipcfg.exeはなくなるが、各接続ごとにそのプロパティからIPアドレスやサブネットマスク、デフォルトゲートウェイなどを確認できるようになり、DHCPの更新などもここからできる。従来のウィンドズ2000では、ipconfig.exeをコマンドラインで実行しなければならなかった。



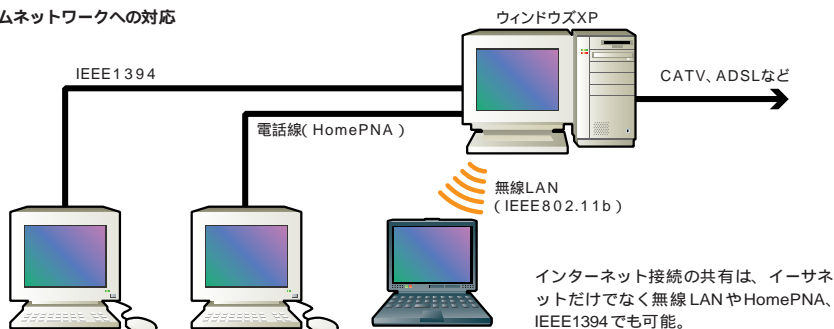
PPPoEが標準でサポートされているので、特別なソフトウェアのインストールは不要。



PPPoEによる接続は、通常のダイヤルアップ接続と同じ感覚でできる。

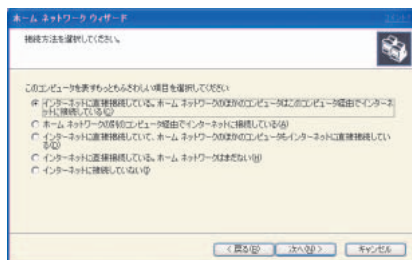
多彩なホームネットワークに対応

ホームネットワークへの対応

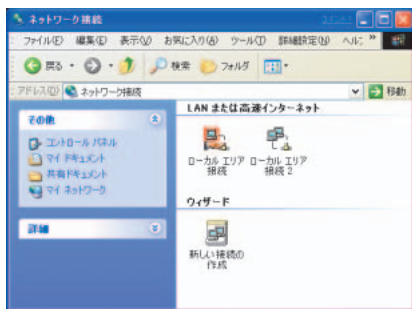


通常のイーサネットによるLANだけでなく、家庭内のネットワークにはIEEE1394や無線LAN、HomePNAなどの複数の接続方法が登場している。ウィンドズXPではこうした各種のネットワークにも標準で対応していて、これらのネットワークを束ねるブリッジ機能も提供される。通常の場合、いくつかのネットワークが混在している環境では複数のIPアドレスとサブネットを扱わなければならないが、ウィンドズXPではあるネットワークから別のネットワークへの透過的な接続を可能にする。つまり、IEEE1394で接続されたパソコンから、ADSL モデムを経由してインターネットに接続するといったことが簡単に実現できるようになるのだ。

さらに、ドメインに所属していないクライアントの場合には、ネットワーク接続の設定は、ホームネットワークウィザードとして統合され、これまでは面倒だったインターネット接続共有の設定もここで対話的に設定することができる。数台のパソコンをつないで、インターネット接続を共有するような、家庭での使い方では設定が簡単で、にわかネットワーク管理者にとってはありがたい機能だ。



インターネットへの接続の設定は、接続を共有する場合も含めてホームネットワークウィザードという形に統合された。



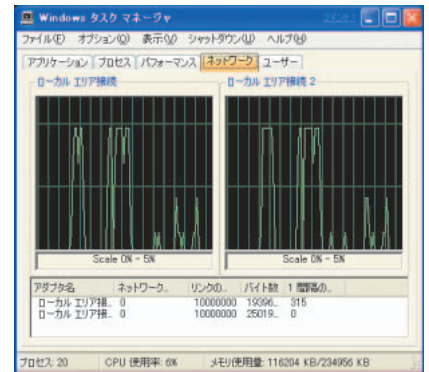
セキュリティやネットワーク管理ツールも充実

LAN やモデムなどの各接続先に関しては、それぞれの詳細プロパティで、ファイアーウォールに関する設定ができ、http やtelnet、SMTP といった代表的なプロトコルについて、外部からのアクセスを許可するかどうかを指定できる。

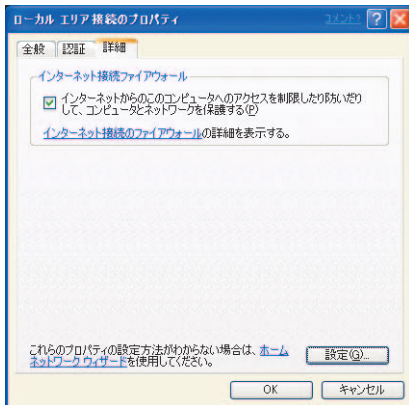
また、ネットワーク上で実行されているプログラムに対して、TCP やUDP でのポート番号やその範囲を指定するような詳細な設定も可能だ。ファイアーウォールはログを取ることのできるため、自分のコンピュータがインターネットを経由して不要な攻撃を受けていないかを監視して、それに応じた対策を練るための材料としても利用できる。

また、タスクマネージャにはネットワークタブが新設され、ネットワークの使用率が監視できるようになった。接続を共有している場合には複数のネットワークの使用率を一度に見ることが出来る。このほかにも、さまざまな標準アプリケーションで、ネットワーク管理に便利な機能が数多く搭載されている。

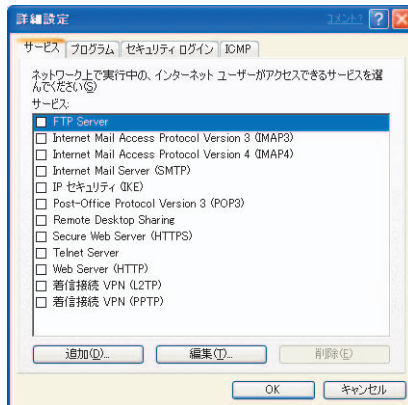
今後のPC にとって、セキュリティをどのようにユーザーに意識させるかは重要な課題だが、ウィンドウズXP ではこうした設定を個別に設定できるだけではなく、ホームネットワークウィザードを使うことで、ネットワークに関する知識のないユーザーにも容易に設定できるようにしている点が目新しい。



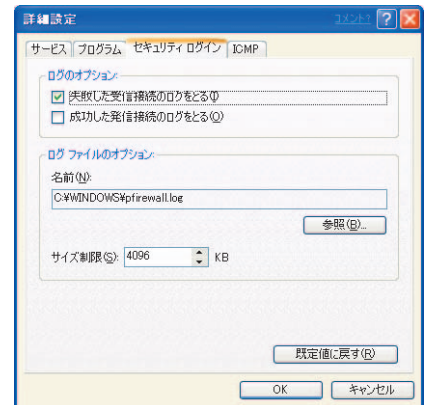
タスクマネージャにはネットワークの状況を表示する機能が加わった。



外部からのアクセスを制御する「インターネット接続ファイアーウォール」の設定画面。



各種のプロトコルに対して、アクセスを許可するかどうかを決められる。



ファイアーウォールのログを取っておけば、どこから攻撃があったかを確認できる。

ブロードバンド時代を迎えて ウィンドウズはどう変わっていくのか

ブラウザはInternet Explorer 6.0、標準メールソフトはOutlook Express 6.0と、環境としてのOSは変わっても、インターネットの基本的なアプリケーションに大きな変化はない。しかし、随所でその統合化が図られ、ブロードバンド常時接続時代にピタリと照準を合わせようとしていることに気がつく。

たとえば、コントロールパネルから日付と時刻のプロパティを開いてみると、新たにインターネット時刻というタブが新設されている。ここでタイムサーバーを指定して、時刻の同期をとることができるわけだ。また、OSの不正コピーを防止するために、製品を

オンラインで登録する「アクティブ化」と呼ばれる仕組みも組み込まれた。もちろん、その作業にもインターネットが使われる。

このほかにも、MSN メッセンジャーなどの標準装備によるP2Pへの対応など、マイクロソフトの次世代戦略「.NET」が、いろいろな面で見え隠れしている点も興味深い。

ウィンドウズXPは現在はベータ2だが、このペースでいけば6月にはRC、8月にはRTMと呼ばれるリリースへと進んでいく。USB2.0やBluetoothのサポートなど、いまだに不透明な部分についても、そこで次第に明らかになっていくはずだ。

Windows XP



インストールしたウィンドウズXPは、「アクティブ化」と呼ばれるオンラインによるユーザー登録を行わなければならない。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp